

第4期多摩区区民会議 第5回自然災害部会 摘録

□開催日時	平成25年6月21日(金) 午後6時00分～8時00分
□会場	多摩区役所10階第1002会議室
□参加者	荒井部会長、細埜副部会長、安陪委員、石橋委員、岩崎委員、清宮委員、原田委員、藤原委員、吉田委員(以上、自然災害部会)
事務局	門間課長、井川係長、奈良職員
コンサルタント	福田研究員、梅田研究員
傍聴者	1名

1 審議テーマに関する取組内容について～具体的な取組、実施主体の検討～

(1)「避難所と備蓄倉庫」の具体的な取組

「自然災害部会「いざという時に助け合える体制づくり」検討用シート」に基づき、前回議論を十分にできなかった“避難所と備蓄倉庫”の具体的な取組について意見交換を行った。

荒井部会長 具体的な取組として①～③が挙げられている。これらを踏まえ、肉付けするものはあるか。②のシール作成は、一つの提言になる。③は、具体的な取組の内容としては提言になっていない。

事務局 シールは既に議論が進んでいる。冷蔵庫に貼り付けるもののコンテンツの一つとして取組める。③は具体的な取組にはなっていない。解決策の方向・解決策について、「避難所の位置・規模、避難場所」が議論されていない。避難所の位置・規模については、区民会議として調べておく必要があるのか、ないのかも一つのポイントだろう。

石橋委員 一つの町会でいくつかの避難所運営会議に出ないといけないう意見があった。避難所は災害を想定して設置されたものではなく、もともとある小学校、中学校が避難所になったので、一つの町会が複数の避難所に係わらなくなりはならなくなった。現在の防災計画の見直しの中で、避難所をどう位置づけ、見直しをするのかしないのかの情報がまず欲しい。見直さないのなら、少なくとも避難所の位置の全体像がわかるマップを作り、区民会議の中で、避難所が適正に配置されているのかどうかを議論する。その上で、学校単位でなく見直しをした方が良いのか、世帯数に応じて分けるのか、高齢者は坂の下の方が良いなど、具体的な提言をする時期に来ている。避難というのは、避難命令が出て避難する避難所と、震災などでそこに住めなくなったので避難する二つを考えなくてはいけない。市が、震災よりも洪水を想定して配置しているために、今までの議論で出ているように、避難所は不合理に決められている。避難所を、現実的にはあそこの方が良いという風にまとめられれば、一つの提言になる。

事務局 学校があるから避難所になったという経緯が大部分であり、災害が発生したときに役立つかという観点から、位置や高低差を調べて、区民会議として提言してはどうかという発言だったかと思う。高低差もあるので、地図上だけではわからないので、場合によっては現地を見ながらになるかと思う。

吉田委員 学校に近いからここに避難すると住民に選んでもらってはどうか。それをマップに配置する。私の避難所はここだとまず頭に入れてもらうことが大事だ。

荒井部会長 幸区では「マイ防災マップ」を作り、実際に歩いている。

事務局 区民会議の委員が実際に歩いて地図を作るのは大変なので、避難所まで実際に歩き、自分たちの防災マップを作りを進めることを提言するのが流れだろう。その過程で、位

置や規模等も見直すことになる。

防災倉庫については、倉庫の容量が違うなどあり、適性規模で作れるといいが、足りないところと融通し合うことになる。倉庫の備蓄量についても偏りが発生する部分があり、行政でも一部取組を進めている。

藤原委員 近所に一時避難場所を設置する必要がある。一時避難場所は、町会や自治会で決めるということだが、町会や自治会だけで良いのか。一時避難場所にはトイレや飲み水が必要だ。数時間は集まるのだから、最低必要な備蓄がいる。そういったものを自治会で決めて持ち寄る。各自治会に一時避難場所を指定してもらい、こういったものを置きましょうと、区民会議として提案した方が良い。公園や町会館など、あなたの町会の一時避難場所はどこですかと聞いて、指定されていない場合は設置してもらわないといけない。年寄りや小学校などには行けない。

吉田委員 公園にはトイレはある。飲料水などを置く場所がない。

藤原委員 小さい公園にはトイレがない。

原田委員 私の町会では学校が遠いので、杉山神社を一時避難場所としている。トイレはある。集まる人数によっても、トイレはいくつか必要になる。

藤原委員 東京都の大きな公園では、公園のマンホールが簡易トイレになるように整備している。そういうものがあれば、心配なくて良い。

石橋委員 避難場所があり、そこにはこういうものが必要だという提言にとどめておかないと、どこにあるないという話になると、全部見てまわらなくてはならない。行政は、一時避難場所から避難所に避難してくださいと言うけれど、タイムラグがあるのだから、一時避難場所がオーソライズされているのであれば、そこには最低限こういったものがなくてはいけませんという提言にする。そもそもこの部会は3.11の震災後、防災意識を高めてもらおうというところから始まった。現実には知らされていないということを、どうまとめていくか。危機感を煽る必要はないけれども、こんな内容で避難所を整備してくださいと提言をまとめないといけない。内容が決まれば、そこに行くまでが安全かどうかなどは、それぞれにマップづくり等で調べると良い。その意味で避難所がどう決まったのか。学校単位の通学ゾーンではなく、学校の回りに住んでいる住民、地域性に基いた方がいいのであれば、それを提言としてまとめる。順序立てて提言をまとめていかないといけない。避難所に何人が来るのか、備蓄品が何人分くらいあるのか。避難所として、本当に適正なのですかということではないですか。

吉田委員 災害の規模によって何人避難して来るのかわからないのに、適正かどうかの話はできない。それぞれにどこに避難したいのかを選んでもらう。そして、学校めがけて避難するまでの、道路ががけ崩れの恐れがある危険箇所、井戸がある場所などをマップに記載する。

石橋委員 ここに避難所を選択することを是として話を進めるならそれで良い。個人に選択権を与えるなら、その方が楽だし、その方が私も良いと思う。

吉田委員 個々に選ばせて、あなたの避難所はこちらですよと記載し、個々の行き方についてマップを作らせるのが良い。

石橋委員 掲示板などに、あなたの避難場所はここですよと掲示をし、なおかつマップには、あなたの避難場所はあなたご自身で決めてくださいと記載するので良いなら、私はそれで良い。一時避難場所については、ある単位で集まりそこから避難所に行くと行政が言っているのだから、それを踏まえて話を進めれば良い。矛盾していることを承知の上で話をしているなら良いけれど、個人で選択することを掲示板には書けないでしょう。回

覧板に何を貼付するのかも、今話したようなことを含めて検討しないと、掲示板に記載してあることと違っては意味がない。

安陪委員 学校が公設の避難所として指定されているが、どうしてもそこに避難しなくてはいけないということではない。落ち着いてから移動すれば良い。町会などを通して、一時避難場所にどこに集まるかを何らかの方法で情報を入手する。行政は、どこの町会がどこを一時避難場所としているという認識を持ってもらえる資料ができると良い。一時避難場所に集まり、近い避難所に避難するという流れがわかるようにする。

清宮委員 避難所というのは本部の命令で開設することになる。

石田委員 各町会が一時避難場所を定めていますか、いませんかということを、町連に協力を呼びかけて、アンケートを実施してはどうか。まず、それがわからないといけない。

事務局 「避難所と備蓄倉庫」については議論も出ましたので、次は具体的な取組について意見交換ができればと思います。

荒井部会長 他には良いか？ 私はもう一つある。

藤原委員 多摩区全体の避難所と町会のマップを作れば、規模や立地が分かる。避難所運営会議の位置や担当している町会も明らかにし、最終的には避難所別なり個別のマップを作れば、具体的な状況が明らかになり、解決に向かう。

安陪委員 全地図に情報を落としこめると良い。

藤原委員 我われの全体としては、多摩区全体の情報が必要であり、各家庭では地域の情報があれば良い。地図を作れば、立地や規模を含めたいろいろな課題が明らかになる。

荒井部会長 もう一つ私が感じているのは、避難する人の立場に立った話だ。避難所でどう動けば良いのかわからない。避難所に来れない人に物資を届けるなど役割がある。避難所の運営についてこう関わってください、住民がこう手伝ってくださいなどを知らせることが必要ではないか。

吉田委員 避難所を開設していないのに役割分担をすることはできない。立ち上げてからでないとダメだ。

荒井部会長 住民はこういうお手伝いをしてくださいということを予め知らせておいた方が良い。立ち上げなくても、例えば、HUGに参加した人はこう携わるのかといったイメージを持つと思う。イメージを持てるものを作ったらどうか。

事務局 これから新しく区民会議として作るのではなく、すでにあるものやっつけていくことができるのではないか。区民会議としてHUGを検討するなら別だが、既に実施しているところがあるなら、そちらに任せて良いのではないか。区民会議として何ができるかという観点で考えたときに、細かいところに入っている気がする。

(2)フォーラム(11月23日)に向けた具体的な取組

「自然災害部会一区長への結果報告までの具体的な道筋を見通し、作業を進めよう!」、具体的な取組内容とその進め方について意見交換を行った。

事務局 一時避難場所を知らべてみましょう、全区的に避難場所を確認しましょうという話が出ている。それを地図上で確認することで、皆さんの知識の中で実際にはこういう区切りになっているけれど、実際は高さの違いがあって違うよねといったことが明らかになる。気づきのマップを皆さんで作業し、見に行かないとダメということであれば実際に見に行き、まず、地域の皆さんの視点で避難所を検証する。その後どうするかは、また別の話だ。大きなマップができれば、一つの成果であり有効だ。「避難所と備蓄倉庫」については、一時避難場所の各町会の調査と避難所と区割りの図面を作る二つの取組だろ

う。

多摩区版「備える。かわさき」の作成なども提案されている。今期の提言として、どこまで進めるか。案を作る、作成・印刷して配付までするなどある。

石橋委員 「備える。かわさき」は、たたき台の案を作るところまでやりたい。それをもって、フォーラムの参加者に意見を聞き、最終版を作成する。

事務局 幸区のように広報の特別号にする、高津区のようにパンフレット型にする、貼り付け型にするなどいろいろある。

荒井部会長 11月のフォーラムまでに見える形のものを作るということで良いですね。

石橋委員 1 多摩区版「備える。かわさき」がきちんとできれば、3 回覧板を活用した情報周知の内容も明らかになる。2 身近なマップでの防災マップの作成は5 避難所・備蓄倉庫に関する取組とリンクする。1 をまずやっつけば、3 にはこういったものが必要ではないかとわかる。4 は別の次元の問題だ。「備える。かわさき」はこういう内容で、回覧板での周知はこんな風に考えましたと出せば、いや、そこまではいらぬよといった意見が出る。

事務局 区内在住大学生と地域との連携の仕組みづくりは、大学生・地域の意向把握、学生向け防災パンフレットの作成・配付、HUG 体験の3 つがある。地域で災害が発生したときにどんな行動を取るのかを検討するDIG というものもある。大学生の意向把握としては、地域の大学生向けアンケートを実施することも仕掛けとしてはある。「備える。かわさき」の中で、学生にして欲しいことは何かを聞く。地域に目を向けたときに、こういうことをするというのはアンケートで聞くことができるのではないか。

荒井部会長 専修大学は災害時のマニュアルが決まっており、学生の安全を確保することになっているので、これについてどうこうは言えない。

石橋委員 事務局が言っているのは、学生に避難所を知っているか、知らないかを聞くくらいはやってはどうかと言っている。

事務局 「備える。かわさき」は地域との関係が意識されていないパンフレットになっている。地域に目を向けたときに、このような内容を入れたパンフレットにしようということはある。そのためには、地域の方は災害の時に何ができるのかを調べないといけない。その意味で、地元と大学生の意向はどのようなものなのかを調査することもあるだろう。

石橋委員 区内在住大学生と地域との連携の仕組みづくりの中の「中学生・高校生・大学生のHUG 体験」は、大学生とは別に、中学生・高校生も災害発生時には協力してもらえる可能性があるということだから、別扱いにした方が良い。別にした方が校長会などでも提言しやすい。

事務局 中学生にHUG 体験をさせることは決まっているので、提言いただければ、ここはすぐにできるだろう。区民会議委員にも参加してもらえると良い。実際には学校の授業の中になるかも知れない。

石橋委員 実施時期などは、学校は年間スケジュールで決まっている。「父兄の参加を踏まえて」等という表現を加えても良い。体験をする提案ができる。

荒井部会長 大学生というのは、多摩区に住んでいる大学生ということか。3 大学に限らない。

事務局 調査で何を求めるのかにもよる。統計的な手法をとり、その年代のデータが必要なら、抽出して実施することになる。

荒井部会長 3 大学に限ってやるのか、多摩区内に居住している18 歳から20 歳まで、広く周知するのか。誰に対して通知を出すのか。

石橋委員 3 大学でいい。それ以外の多摩区に住んでいる大学生は区民だ。3 大学という大きな

固まりがあるから、その人たちと連携するための意見を聞く。

荒井部会長 地域に住んでいる大学生をどう扱うかだ。

事務局 多摩区内には大勢の学生が住んでいるだろうが、多摩区としては3大学との連携ということが大きな特徴であり、3大学の学生との連携が主だ。そうでなければ、一般論になってしまう。

岩崎委員 災害が発生したときに、多摩区に残るか残らないかがある。区内に住居を構えていて残る大学生が対象になるだろう。そうしないと、事実上設定が難しい。

荒井部会長 タイムスケジュール的にはどうか。

事務局 いくつか具体的な提案がされている。アンケートにしても具体的に何を聞くのかを、皆さんで検討してもらいたい。11月までに結果が明らかになって報告できるようにするには、どうしたら良いかなど。いくつかの提案を皆で一つずつ潰していくのか、同時並行的にいくつかの提案に取り組むのか。

コンサル これまでの話しでは、1 多摩区版「備える。かわさき」に取り組むことで、3「回覧板を活用した情報周知や4 学生向け防災パンフレットについても内容が決まってくるだろうということだ。また、2 身近な単位での防災マップの作成や5 避難所・備蓄倉庫に関する取組は、実際に多摩区の地図上に避難所や自主防災組織の区割りを記載することで、課題が明らかになり何らかの提案に結びつくのではないかと。その際に、一時避難所が指定されているのかどうかなどをアンケートで実施してはどうかということだった。大きくはこの二つの固まりになる。この二つに、プロジェクトチームを組んで同時にスを進めるか、優先順位を着けて一つずつ片付けるか。また、同時に進めるなら、2時間の部会で最初の90分を2チームに分かれて検討し、残り30分で報告し合うといった進め方もある。HUG体験は具体的な提案としてはあるが、区民会議で提案するというより、危機管理室などが実施する際に参加するなど、中高生もきちんとHUG等を通じて、防災について検討しましょうということの良いのかと思う。

石橋委員 HUGは、やる方向で提言をする。すぐにやるかやらないかは相手があることだ。防災訓練の時間の中に入れてください、退避訓練の一つに組み込んでくださいといった提言にすると良い。実際に機会があれば、私たちも実際に体験してみる。

藤原委員 南生田中学校で実施した際には、私も参加した。

事務局 HUGは親に伝えるなど、広報効果もある。

荒井部会長 具体的な進め方を決めよう。

事務局 パンフレットとマップということだが、意向を聞くチームを一つ設けなくても良いか？

コンサル それでは1 パンフレット、2 マップ、3 アンケートの3つのチームに分けよう。

事務局 マップに避難所等を落とす作業は、各委員は住んでいる地域が異なり把握している情報も違うので、全委員で作業をした方が効果がある。まず、マップづくりに携わってはどうか。

石橋委員 マップよりもアンケートを先にして、その結果をマップ等に反映した方が良い。マップは地図を広げて、全員で作業をする。地図に避難所の場所などを記す。アンケートは相手があることなので、急いだ方が良い。大学も夏休み前に対応できると良い。まずパンフレットとアンケートに分かれてそれぞれに検討し、その結果を持ち寄って全員で意見交換をできると良いのではないかと。マップは遊びながら楽しく作業をする。

岩崎委員 7月1日に3大学連携の集まりがある。その際に、アンケートの協力をお願いし、了解を得ることは可能である。実際の実施は、設問等ができてからになるが、1日は設

問などは無くても良い。

コンサル 大学生は合宿があったり田舎に帰ったり留守になるので、夏休み中に郵送されるよりも夏休み明けに届いた方が良いでしょう。8月中に設問を固め、次回全体会（9月4日開催）で報告し、実施できると良い。

事務局 大学生の送付先については、個人情報の関係もあるので、ラベルなどで受け取り、この目的以外には使わないようにするなど、やり方はある。

以上の意見を踏まえて、各チームのメンバーを以下の通り決定した。（順不同）

【パンフレットチーム】

安陪委員、吉田委員、原田委員、細埜副部長、清宮委員、藤原委員

【アンケートチーム】

荒井部長、岩崎委員、石橋委員、新田委員

2 その他

【スケジュール】

- 第6回自然災害部会 平成25年7月29日（月） 午後6時～
- 第7回自然災害部会 平成25年8月22日（木） 午後6時～

以上